

## 北海道えりも町百人浜の漂着種子と果実

石川 慎也<sup>1)</sup>

## はじめに

北海道えりも町にある百人浜は、襟裳岬の東側に位置する。浜は長さ約10キロに渡り砂浜が続いており、日高山脈襟裳国定公園の特別地域や渚100選に指定されている。襟裳岬沖では、千島列島沿いに流れる寒流系の千島海流（親潮）と暖流系の対馬海流が津軽海峡を越えてきた分流がぶつかりあう。そのため、百人浜にはさまざまな漂着物が打ち上げられており、著者は2000年頃より漂着物の収集及び調査を行ってきた。百人浜での漂着物については、これまでもいくつかの報告があるが（石川2006；小林2005；鈴木2004,2006）、百人浜の漂着種子と果実についてのまとまった報告は行われていない。そこで本報告では、えりも町内には自生していないが、百人浜での漂着が確認された種子と果実について報告する。

## 漂着種子と果実

1. ココヤシ *Cocos nucifera* L.

(ヤシ科)

島崎藤村の「名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実一つ…」の詩は、柳田国男から愛知県渥美半島の伊良湖岬に流れ着いたココヤシの実話を聞いたことにより作られた。この詩でも知られるように、日

本では果実の漂着物といえば、ココヤシが最も有名である。そのため、古くから注目され全国各地で漂着が知られているが、これまで東北及び北海道の太平洋沿岸での記録は報告されていなかった（中西1982,1999）。しかし、近年北海道の太平洋沿岸で、漂着物収集を目的に浜を歩く人が増えたことにより、日高や十勝などの沿岸でも漂着が確認されている（小林,未発表）。

百人浜では、2000年7月に1個、2006年9月26日に2個の漂着記録がある（写真1）。漂着時の状態は、外果皮が剥がれ繊維質の中果皮が露出している。それぞれの大きさは、（別表1）のとおりである。

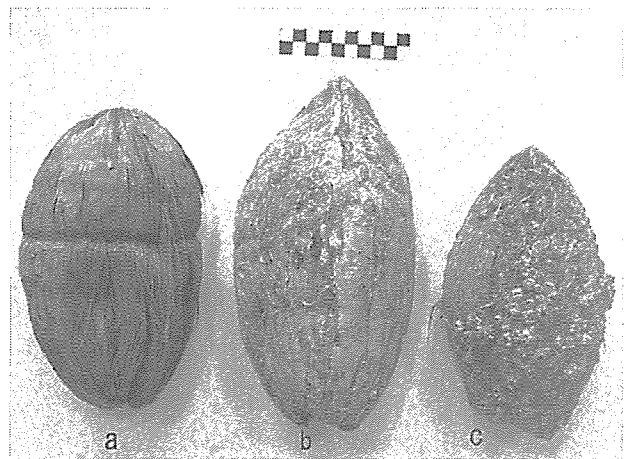


写真1. ココヤシ。  
2000年7月(a)、2006年9月26日(b), (c)に漂着。

表 1.百人浜に漂着したココヤシの寸法

Table1.Dimension of coconut *Cocos nucifera* stranded on the beach of Hakunin-hama at Erimo,Hokkaido,Japan.

	長さ(mm)	最大幅(mm)	重さ(g)
a	198	125	222
b	232	122	346
c	189	104	300

1) えりも町交流促進センター 襟裳岬「風の館」

〒058-0343 北海道幌泉郡えりも町字東洋366-3 E-mail: kaze@coral.ocn.ne.jp

2. ミフクラ *Cerbera lactaria* Buch.

(キョウチクトウ科)

本種の漂着は、分布域の琉球列島以外でも、九州や四国、和歌山、愛知、静岡、神奈川などで記録がある(中西1990,1999;田中2002;茨木2003)。これは、果実が大きく、繊維質とコルク質からなる果皮を持ち海流散布に適した構造をしているからといわれている(中西1999)。

百人浜では、2005年8月28日に百人浜の中でも襟裳岬に近い通称「下(しも)」と呼ばれる地区に漂着していた記録のみである(石川2006)。その果実は、長さ57mm、幅41mm、厚み37mm、重さ17gであった(写真2)。外見は、かなり風化しており一部は繊維質の層がとれて、その中のコルク層まで露出しており、長期間海を漂っていたことを物語っている。



写真2. ミフクラギ。  
2005年8月28日に漂着。

3. シナアブラギリ *Aleurites fordii* Hemsl.

(トウダイグサ科)

本種は、中国の揚子江中～上流域を原産地として、インドシナ、ビルマ(ミャンマー)、台湾などで野生化し、また世界各地の暖温地帯に栽培される落葉の高木である(中西1983,1990)。漂着は種子が多いが、まれに果実のままで漂着することもある。種子は、小さく目立たないが、宮崎、長崎、福岡、山口、高知、徳島、和歌山、愛知の各県で発見されて

おり、日本各地の海岸に漂着していると思われる(中西1983,1990,1999;茨木2003)。

百人浜では、2006年9月22日に1個、9月29日に2個の種子の記録がある(写真3)。9月22日の種子には、エボシガイが付着していた。

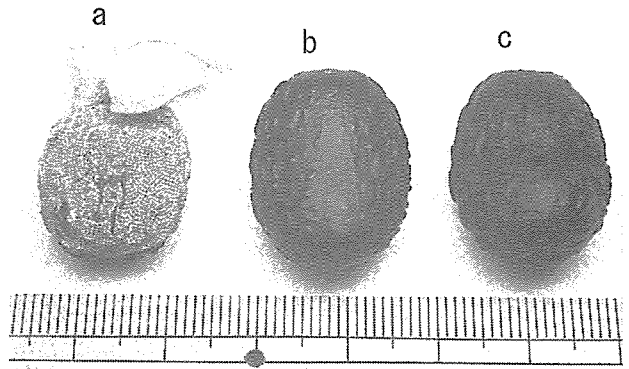


写真3. シナアブラギリ。  
2006年9月22日(a)、9月29日(b)、(c)に漂着。

4. ブナ *Fagus crenata* Blume

(ブナ科)

本種は、高さ20~30m、太さ60~100cmになる落葉広葉樹で、本州、四国、九州に分布する日本固有種で、北海道では黒松内町を北限とし渡島半島のみにも自生している。ブナの殻斗の漂着は分布域の中心である東北地方の日本海沿岸では普通に見られ、対馬海流の影響で、北海道北部日本海沿岸まで漂着している(中西2005)。百人浜では、2004年10月2日、12月18日に各1個の殻斗の漂着記録がある(写真4)。

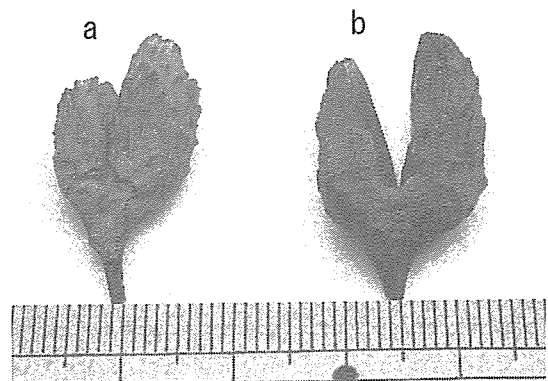


写真4. ブナ。  
2004年10月2日(a)、12月18日(b)に漂着。

5. トチノキ *Aesculus turbinata* Blume

(トチノキ科)

本種は、高さ20~25mになる落葉広葉樹で、本州、四国、九州に分布し、北海道では石狩~胆振地方以南に自生するといわれており、これまで、えりも町内での自生は確認されていない(三浦忠雄1999)。百人浜では、2005年10月24日に1個の漂着記録があり(写真5)、本州や北海道南西部より漂着したものと考えられる。

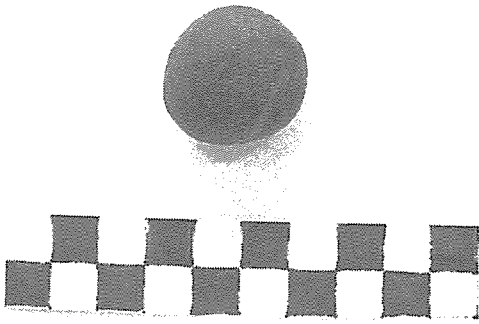


写真5. トチノキ。  
2005年10月24日に漂着。

6. ヒシ *Trapa japonica* Flerow

(ヒシ科)

本種は、水深2m程度までの湖沼の水中に群生する浮葉性の一年草で、北海道から本州、四国、九州まで全国に自生している。これまで、えりも町内での自生は確認されていないが(三浦忠雄1999)、十勝地方の湖沼群などでは自生している。百人浜では、2005年8月28日に漂着を確認している(写真6)。

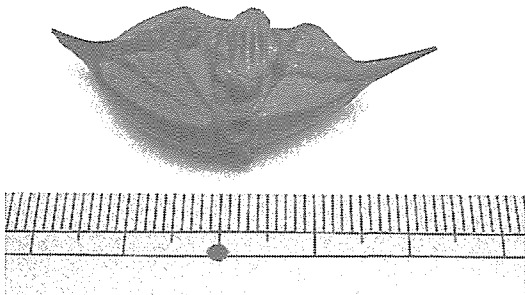


写真6. ヒシ。2005年8月28日に漂着。

おわりに

今回報告したもの以外で百人浜に漂着する種子や果実としては、オニグルミが最も多く、他にはカシワやミズナラなどのドングリ、クロマツなどマツ属の球果などえりも町内で自生している種や、モモやウメ、カボチャなど投棄された食料品由来の物などが記録されている。

ここ数年、百人浜では、以前は漂着記録のなかったカツオノエボシや稀な漂着だったオレンジ浮子、分銅型浮子など南方由来の漂着物が増加してきている。また、十勝地方の豊頃町トイトッキの浜では、ゴバンノアシ、ボウガンヒルギの漂着が確認されている(小林,未発表)。今後これらの種を含めて南方由来の種子や果実の漂着が増えていくか調査を継続したり、海流の流れなど漂着の要因の過去との変化についても注目していく必要があると考えている。

長崎大学教育学部の中西弘樹氏には種子や果実の同定ならびに貴重な資料の提供をいただき、帯広市の小林真樹氏には未発表の日高や十勝地方の漂着物に関しての情報をいただきました。未筆ながら感謝申し上げます。

## &lt;参考文献&gt;

- 石川慎也2006. 北海道百人浜へのミフクラギの漂着. 漂着物学会会報18:3.
- 茨木靖2003. 徳島県の漂着種子. 漂着物学会会報6:1-4.
- 小林真樹2005. えりも町百人浜で採集された打ち上げ貝について. えりも研究第2号:13-18.
- 佐藤孝夫1990. 北海道樹木図鑑. 亜璃西社, 札幌市.
- 鈴木昭彦2004. 北海道日高地方沿岸における打ち上げ貝類. 漂着物学会誌第2巻:13-18.
- 鈴木昭彦2006. 北海道の漂着物. 道新マイブック.
- 滝田謙讓2001. 北海道植物図譜. 滝田謙讓, 釧路市.

Bull. Erimo Town Mus.4:9-12(2007)

田中利雄2002. 愛知県の海岸等の漂着種子. 漂着物学会会報2:3-4

中西弘樹1982. 日本におけるココヤシ、ニッパヤシの果実の漂着. Seed Ecology.No.13:7-10.

中西弘樹1990. 海流の贈り物－漂着物の生態学. 平凡社, 東京.

中西弘樹1999. 漂着物学入門－黒潮のメッセージを読む. 平凡社, 東京.

中西弘樹2005. 長崎県野母崎海岸にブナの殻斗が漂着. 漂着物学会誌第3巻:43-44.

三浦忠雄1999. 新版えりもの植物. 新版「えりもの植物」出版実行委員会. えりも町教育委員会.